



カリフォルニアワイン2025 収穫レポート

～穏やかな季節がもたらしてくれた、凝縮したフレーバーと快活な酸味～

ゆっくり着実に進んだ生育期が、傑出した2025ヴィンテージの舞台を整えました

カリフォルニアワイン協会 (California Wine Institute、略称 CWI) は、2025年のワイン用ブドウの収穫レポートを、以下のとおり発表しました。

2025年、カリフォルニアワイン用ブドウの収穫は、過酷な熱波がなく、予期せぬ事態もほとんど起きないという、長く安定した生育期を経て、11月初旬に終了しました。州全体を通して春は涼しく、夏の気温もほどほどだったため、ブドウはゆっくりと成熟しました。穏やかな気温は収穫期に入っても続き、州全体でこのヴィンテージ

に対する、楽観的な見方が広がっています。

カリフォルニアのワイン生産者たちは、2025年のワインが凝縮感とバランスの両方を備え、赤ワインは深みと骨格を、白ワインはエネルギーと緻密さを呈すると予測しています。

「2025年のワインは、豪華絢爛というよりは、優雅なスタイルになるでしょう」と、セント・ヘレナにあるアルファ・オメガ・ワイナリーのワインメーカー、メリッサ・パリスは述べました。「抑制が効いていて、畑の個性が表現されたヴィンテージです」。

「2025年のワインは、豪華絢爛というより 優雅なスタイルになる。 抑制が効いていて、畑の個性が 表現されたヴィンテージ」

—メリッサ・パリス／アルファ・オメガ・ワイナリー（セント・ヘレナ）ワインメーカー

シーズンの始まりが涼しかったため、一部の地域では収穫開始が平年と比べ、最大2週間遅くなっています。生育期終盤の雨により、栽培チームは機敏な対応を求められ、腐敗果のない健全なブドウを確保するために、細心の注意を払って選果を行う必要がありました。

ワイン生産者たちからの報告によると、収量は地域によって異なりますが、概ね平年並みから平年以下となっています。

米国農務省 (USDA) は、2025年のカリフォルニアのワイン用ブドウ生産量を300万トンと予測しており、これは2024年から4%の増加ですが、それでも過去3年間の平均を16%下回っています。カリフォルニアワインブドウ栽培者協会 (CAWG) が出した値は、2024年の288万トンに対し、250万トンをわずかに下回るという、より低めの予測です。

冷涼な気候がゆっくりとした果実の成熟を可能に

カリフォルニアのワイン産地は多様で、それぞれ天候は異なりますが、今年の州全体の気温は、平年より低めでした。

ナパ・ヴァレーについてパリスは、「今シーズンは、進み具合も雰囲気も、昔に戻ったような感じがしました。劇的な変化は少なく、落ち着いていて、ワインメーカーが皆夢見る、ゆっくりとした果実の成熟が特徴となった年でした」と、語っています。

インランド・ヴァレーズでは、穏やかな生育期が、このヴィンテージに対する早い段階からの楽観論につながりました。

クラークスバークにあるボーグル・ファミリー・ワイン・コレクションで、製造担当役員を務めるクリス・スマスは、「初手から品質は高かったです。早熟品種において、信じられないほどの色とフレーバーが得られました」と、述べています。

収穫の開始時期は、地域によって大きく異なりました。

ノース・コーストのソノマ・カウンティにあるラムズ・ゲート・ワイナリーでは、カーネロス地区のブドウの摘み取りが、8月25日に始まっています。しかしながら、沿岸部では、ブドウが熟するのにもっと長い時間がかかりました。

「海の影響をより強く受けるブドウ畑や、ムールヴェードル、シラー、カベルネ・ソーヴィニオンといった晩熟品種は、待たねばなりませんでした。適熟を迎えたのは、10月に入ってからです」と、醸造責任者のジョー・ニールセンは語っています。

さらに南、セントラル・コーストや内陸部の地域でも、同様の気象パターンが見られました。パソ・ロブレスでは、涼しい春のあと、生産者たちは観測史上最も気温の上がらない7月を経験しています。収穫は、平年より1週間から10日遅れて始まりました。

「今年1年を通して、華氏100度（摂氏約38度）を超えた日が、例えばそうですね、8日もあったとしたら、驚きますよ。こんなに涼しいシーズンは珍しいです」と、パソ・ロブレスにあるホープ・ファミリー・ワインズの栽培担当役員、ステイシー・シーは語っています。

収穫時の糖度が低かった点が、赤ワイン品種における、優れたフレーバーの発達と力強い色合いに寄与しました。



「2025ヴィンテージは、優雅で豊かな出来映えになるでしょう」

—アキコ・フリーマン／フリーマン・ワイナリー（セバストポール）
ワインメーカー兼共同設立者

シーズン終盤の雨で柔軟性が求められる

収穫期の雨が、状況を複雑にするのは避けられません。それでも、カリフォルニアのブドウ栽培家とワイン醸造家たちは、9月と10月に降ったにわか雨の影響を軽減するために、素早く動きました。

ロシアン・リヴァー・ヴァレーとウエスト・ソノマ・コーストに畑を持つ、セバストポールのフリーマン・ワイナリーほか数軒の生産者たちは、早めの摘み取りを選択し、未熟な果実を選別して取り除いています。

「ピノ・ノワールはすべて、低い糖度と非常に良好なフレーバーを備え、素晴らしい姿形でワイナリーに届きました。シャルドネの半分は、まとまった雨の後に摘まれましたが、うちの最高の栽培家たちは、収穫前に問題のある房をすべて落としてくれたので、やはり美しいブドウがやってきました」と、ワインメーカー兼共同設立者のアキコ・フリーマンは述べました。

ラムズ・ゲートのような他のワイナリーでは、ブドウの房回りにスペースを作り、風通しを良くしてべト病のリスクを減らしています。

アルファ・オメガ・ワイナリーのパリスは、ナパ・ヴァレーにおいて、雨がカベルネ・ソーヴィニヨンに深みとフレーバーの凝縮感を与え、特に水はけの良い場所ではそれが顕著だったと指摘しました。

「結局のところ、雨は品質に影響する要因というより、タイミングとチームワークの試金石なのです。今年のような年には、忍耐と同じくらい機敏さが重要であると、思い出させてくれました」と、パリスは振り返っています。

フレッシュで生き生きとしたヴィンテージ

今シーズンの冷涼な気候のおかげで、いくつかの地域では、ブドウがより低い糖度で適熟に至りました。カリフォルニアのワイン生産者たちは、活気がたっぷり、かつ複雑さもあるワインができるだろうと期待しています。

「2025ヴィンテージは、優雅でフレーバー豊かな出来映えになるでしょう」と、フリーマンは付け加えました。

白ワインは、並外れた酸味を見せるだろうと、ラムズ・ゲートのニールセンは言い添え、シャルドネ、ピノ・ブラン、ソーヴィニヨン・ブランといった品種名を挙げています。赤ワインについては、成熟期間が長



かったために味わいに緊張感とエネルギーが生まれ、とりわけ晩生品種に見られるのは、深い色合い、印象的な凝縮感、フィネスです。

ナパ・ヴァレー産のカベルネ・ソーヴィニヨンとカベルネ・フランは、深い色と上質なテクスチャーを伴い、優雅なタンニンに縁取られた状態で、ワイナリーに届きました。同地域のソーヴィニヨン・ブランには、輝かしい柑橘類と核果類のニュアンスが感じられ、シャルドネは緊張感とミネラル感に満ちています。

セントラル・コーストのワインメーカーたちが報告するのは、白品種のエネルギーと、赤品種の優れた色とフレーバーの強さです。

雨の影響を避けるために、通常より低い糖度でシャルドネを収穫した生産者もいたため、2025ヴィンテージには、快活なワインが増えたと予想されます。

「よりフレッシュなスタイルのワインが、出てくるでしょう」と、J.ローアー・ヴィンヤーズ・アンド・ワインズの醸造担当副社長、スティーブ・ベックは述べました。サンノゼにあるこのワイナリーは、モンレー・カウンティとアロヨ・セコに自社畑を保有しています。「アルコール度数が14.5%近くになるのではなく、13.5%を少し超えるくらいになるかもしれません。私たちが考える、今時のスタイルに実によく合致しています」。

ベックが言うに、最も注目すべきはパソ・ロブレス産赤ワインの個性です。「小売価格20ドルの銘柄用に栽培している畑のカベルネが、50ドルで売れそうな味をしています。今年のパソでは、その点において本当に良いバランスを手に入れました」。

地域別収穫レポート

ナパ・ヴァレー、ソノマ・カウンティ、スースーン・ヴァレー、サンタ・クララ・カウンティ、ローダイ、パソ・ロブレス、サンタバーバラ、テメキュラ、サンディエゴ・カウンティの地域レポートを含む、[カリフォルニア2025収穫レポート全文](#)については、[こちら](#)をご覧ください。

ローダイ

ワイン用ブドウ総栽培面積：82,000 エーカー

最も多く栽培されている品種：

カベルネ・ソーヴィニヨン、シャルドネ、ジンファンデル

作付面積で最も急成長している品種：

ソーヴィニヨン・ブラン

収穫の概要

平均気温： 平年より低い

降水量： 平均的

山林火災の影響を受けた面積： なし

収穫開始のタイミング： 平均的

収穫開始日： 8月11日の週

収量： 平年並みから平年以下

生産者たちからは、フレッシュな酸味と快活なフレーバーを旗印とする、2025ヴィンテージの並外れた品質を讃える声が聞こえてきています。

生育期は順調に進み、病害の発生もほとんどなく、ブドウは萌芽から開花まで正常に発育しました。ほどよく涼しい気温のおかげで、果実の成熟はゆっくりになりました。栽培家たちは今年、総酸度とpHが正しいバランスになるのを待つため、相当な忍耐を強いられました。

穏やかな天候は、ピノ・グリージョやソーヴィニヨン・ブランといった早生の白品種が、酸を保つのに役立っています。成熟のペースが遅かったため、赤ワイン用ブドウは、低い糖度でありながら、濃い色、フレッシュさ、深いフレーバーを身にまといました。ジンファンデルは、2025ヴィンテージにおいて優れた色と凝縮感を見せていますが、古木の収量は平年よりやや少なめです。

ナパ・ヴァレー

ワイン用ブドウ総栽培面積：43,524 エーカー

最も多く栽培されている品種：

カベルネ・ソーヴィニヨン、シャルドネ、メルロ

収穫の概要

平均気温： 平年より低い

降水量： 平均的

山林火災の影響を受けた面積：

5,001～8,000 エーカー

収穫開始のタイミング： 平均的

収穫開始日： 8月11日の週

収量： 平年より多い

2025ヴィンテージは、予想を上回る収量と並外れた品質をもたらしました。ワインメーカーたちはこの年、原点に回帰し、ワインは優雅で、バランスが取れていて、長期熟成能力を備えるだろうと期待しています。

ナパ・ヴァレーの生育期は、全体的に涼しかった上に、春と初夏に雨が降り、そして過酷な熱波がなかった点において、過去数年とは顕著な違いを見せました。

冬の降雨で年が始まり、健全な樹冠と房が生まれるための舞台が整いました。シーズンの初め、ブドウはすくすくと育ち、萌芽は3月10日頃でした。6月はほどよい高さの気温となり、ヴェレゾン（色づき）は7月中旬に始まっています。

穏やかな気候のもと、一定のペースで果実が熟したおかげで、土地の表現力が高まり、地区ごとのニュアンスが際立ちました。

カリスタガ・ヒルズでのピケット山林火災が、8月にはニュースになりましたが、燃えたのは北部の狭い地域だけで済んでいます。カウンティ当局によると、火災の影響は、域内農地のわずか3%にとどまるという見積りです。

生育期終盤、9月と10月に雨が降った際に

は、渓谷地の南端から吹くそよ風が、ブドウの房を乾かしてくれました。カビの繁殖を防ぐため、造り手たちは樹冠に隙間を明け、房同士の距離を離して、風通しをよくしました。

ワイナリーに届いた果実は、大変に深い色をしていて、低い糖度でもフェノール類はしっかりと成熟、力任せではない深みを感じさせる状態でした。

パソ・ロブレス

ワイン用ブドウ総栽培面積：40,000 エーカー

最も多く栽培されている品種：

カベルネ・ソーヴィニヨン、シラー、プティ・シラー

作付面積で最も急成長している品種：

その他のロース品種

収穫の概要

平均気温： 平均的

降水量： 平年より少ない

山林火災の影響を受けた面積： なし

収穫開始のタイミング： 平年より遅い

収穫開始日： 8月下旬

収量： 平均的

2025ヴィンテージは、パソ・ロブレスのワイナリーに素晴らしい品質をもたらしました。収穫時、白ブドウは完熟し健全な状態で、カベルネ・ソーヴィニヨンについては、樹上に房が長く留まったために、色、骨格、フレーバーが増しました。ワインメーカーたちは、赤ワインは複雑かつバランスがよく、中でもシラーが突出した出来映えになると、期待を隠しません。多くが2025年について、2023ヴィンテージになぞらえています。

その生育期は、穏やかな天候と、観測史上最も涼しい夏のひとつとなった点に特徴づけられます。萌芽は10日から2週間も平年より遅く、うららかな春が、ゆっくりとしたブドウ

樹の生育に寄与しました。開花と結実ほぼ完璧で、歩留まりについては、当初の見込みを上回り、最終的には平年並みかそれ以上の量となりそうです。

生育期を通して、べト病のリスクが高かったものの、ブドウ樹は酷暑のストレスを受けませんでした。熱のストレスがなかったため、ブドウ樹はずっと養分吸収を続けられ、収穫後の休眠期においても健康が保たれそうです。

摘み取りは平年より約1週間遅く始まり、収量は平均から平均以上、数字で言うと平年を10%から20%上回る範囲となりました。穏やかな天候が続いたために、果粒がふくらんだ結果です。収穫期間中に降った3度の雨も、果粒重量の増加に一役買いました。

サンディエゴ・カウンティ

ワイン用ブドウ総栽培面積： 641 エーカー

最も多く栽培されている品種：

カベルネ・ソーヴィニヨン、シラー、メルロ

作付面積で最も急成長している品種：

アルパリーニョ、カベルネ・フラン

収穫の概要

平均気温： 平年より低い

降水量： 平年より少ない

山林火災の影響を受けた面積： なし

収穫開始のタイミング： 平均的

収穫開始日： 8月8日

収量： 平年より多い

開花期は穏やかな天候、結実も良好、全体に涼しかった今年の生育期を終えて、サンディエゴの生産者たちは、2025年のワインは素晴らしい品質になるだろうと考えています。一部の栽培家によると、テンブラニーヨの出来が特に良かったようです。



サンタバーバラ

ワイン用ブドウ総栽培面積： 14,886 エーカー

最も多く栽培されている品種：

ピノ・ノワール、シャルドネ、シラー

作付面積で最も急成長している品種：

ソーヴィニヨン・ブラン、代替白品種

収穫の概要

平均気温： 平年より低い

降水量： 平年より少ない

山林火災の影響を受けた面積：

3,000 エーカー

収穫開始のタイミング： 平均的

収穫開始日： 8月20日

収量： 平均的

2025ヴィンテージは、低いアルコール度数と強い天然の酸味の年だと定義されるでしょう。通常より低い糖度で、フレーバーとフェノールの成熟が得られていて、ピノ・ノワールでとりわけ、低い糖度と高い品質が両立しています。

2025年の生育期の天候は、平年より涼しく、極めて乾燥していました。結実は良好で、均一に進んでいます。しかし、乾燥状態が、8月に発生したギフォード山林火災へとつながりました。この山火事は、サンタ・マリア近郊のロス・パドレス国有林にある、起伏の激しいガルシア原生地域で、130,000 エーカー以上の土地を焼き尽くしています。大気中を漂い続けた煙は、サンタバー

バラ・カウンティにあるおよそ3,000エーカーのブドウ畑に加え、サンルイスオビスポ・カウンティの一部の畑にも、影響を与えました。

収穫は平年通りの時期、8月第3週に始まりました。しかし、夏と秋の気温が低く成熟が遅れたため、果実の大部分が、シーズンの終わりに摘み取られています。降雨のせいで、生育期最後の成熟が難しくなり、10月下旬までずれ込みました。歩留まりについては、少量だった2024年より多くなると予想されています。

サンタ・クララ・カウンティ

ワイン用ブドウ総栽培面積： 1,471 エーカー

最も多く栽培されている品種：

カベルネ・ソーヴィニヨン、マルベック、メルロ

収穫の概要

平均気温： 平均的

降水量： 平均的

山林火災の影響を受けた面積： なし

収穫開始のタイミング： 平年より遅い

収穫開始日： 9月13日

収量： 平均的

2025ヴィンテージは、冷涼な気候を反映したワインとなりそうで、赤ワインには青系果実の特徴が出るでしょう。生育期の気温は、低めからほどほどで、開花と萌芽がわずかに遅れました。夏の涼しい天候のため、収穫は平年より1週間以上あとに始まっています。

ソノマ・カウンティ

ワイン用ブドウ総栽培面積：56,894 エーカー

最も多く栽培されている品種：

シャルドネ、ピノ・ノワール、カベルネ・ソーヴィニヨン

収穫の概要

平均気温： 平年より低い

降水量： 平年より低い

山林火災の影響を受けた面積： なし

収穫開始のタイミング： 平均的

収穫開始日： 8月12日

収量： 平均的

ソノマ・カウンティの生産者たちは、2025ヴィンテージの並外れた果実品質を讃えつつ、優れたワインになるだろうと期待しています。冬にはちゃんと雨が降り、強くは冷えず、「霜注意報」の出る夜がほとんどありませんでした。ブドウの生育期は10月中旬まで、ほぼ理想的な条件で展開しています。適度に暑く、バランスのとれた夏のおかげで、果実は着実に熟し、時折訪れた涼しい夜が、酸と骨格の維持に役立ちました。

収穫開始は、予定通りの8月中旬、準備万端となったスパークリングワイン用ブドウからでした。栽培家たちは、ブドウ畑の区画全部が均一に熟し、見事なフレーバーが手に入ったと語っています。歩留まりは良好で、一部の畑や品種では、前年よりわずかに多い収量が報告されました。これは、春の結実がうまくいったおかげです。10月初旬に丸一週間かけて、急いで摘み取りを行なったのは、雨の予報が出ていたからでした。

カウンティ全体で、雨と冷え込みが到来するより早く、できる限り多くの果実を樹から離そうと、栽培家と醸造家たちは着実に作業を進めました。全体として2025ヴィンテージは、人繰り、栽培家と醸造家の協力体制はいつも通りでしたが、急な幕切れによって特徴づけられています。そのすべてが、卓越した果実品質という結果につながりました。

スースン・ヴァレー

ワイン用ブドウ総栽培面積：3,000 エーカー

最も多く栽培されている品種：

カベルネ・ソーヴィニヨン、プティ・シラー、シャルドネ

収穫の概要

平均気温： 平年より低い

降水量： 平均的

山林火災の影響を受けた面積： なし

収穫開始のタイミング： 平均的

収穫開始日： 8月下旬

収量： 平均的

生産者たちは、2025ヴィンテージについて、非常に良い品質だと報告しています。収穫時に、一部の品種で果実がしぼんだり、pHが低くなったりといった、予期せぬ難局が生じたにもかかわらずです。生育期全体が、いつもよりほんの少し後倒しになった点以外は、平穏かつ平年どおりでした。

テメキュラ

ワイン用ブドウ総栽培面積：2,500 エーカー

最も多く栽培されている品種：

カベルネ・ソーヴィニヨン、シラー、プティ・シラー

作付面積で最も急成長している品種：

ヴェルメンティーノ、シラー

収穫の概要

平均気温： 平年より低い

降水量： 平年より少ない

山林火災の影響を受けた面積： なし

収穫開始のタイミング： 平年より遅い

収穫開始日： 8月22日

収量： 平年より少ない

生産者たちは、早生および中生のブドウ品種について、素晴らしい酸味とそのブドウらしさが見られる、高品質なヴィンテージになるだろうと考えています。この年、生育期の諸条件は変化に富んでいて、天候そのものはもちろん、開花、萌芽のタイミングもさまざまでした。涼しかったため、収穫は通常より1週間から2週間遅れて始まり、樹に実る果実自体が多くはなかったため、このヴィンテージの収量は低めになりました。





ABOUT WINE INSTITUTE

カリフォルニアワイン協会 (California Wine Institute、本部・カリフォルニア州サンフランシスコ) は、1,000社を超えるカリフォルニアのワイナリー及びワイン関連企業から構成される非営利団体で、ワインの生産や流通や消費に関する政策的な提言を行っています。輸出プログラムにおいては、世界18カ国に事務所を置き、世界30カ国以上でマーケティングとプロモーションを実施しています。ワイン業界関係者・メディア・消費者向け試飲会の実施などをサポートしており、毎年185以上のカリフォルニアのワイナリーが当プログラムに参加、142か国にワインを輸出しています。日本事務所は、カリフォルニアワインの普及促進、日本市場における関税、非関税障壁の監視などを目的に1985年に設立されました。

カリフォルニアワイン協会 (CWI) 公式ホームページ [日本語]

www.calwines.jp

本件に関するお問合せ先

カリフォルニアワイン協会 (CWI) PR事務局

担当: 今上 貴子(いまうえ たかこ) メール: jpmedia@wineinstitute.org